

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：最上集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	生棚かしたの価値活動を					
	集落機能強化					
	生産性向上	年間畦塗施工長を2,500m実施	年345千円を上限として年2,500mの施工を行う 畦塗施工 2,500m×5年 (畦塗の施工により漏水防止、冷害危険期の水位確保による不稔の減少、除草剤効果化の向上による安定収量の確保)	畦塗施工委託費 120円/m×2,500m×5年 作業労賃（実測） 15千円/日×3日×5年	1,500,000 225,000	
イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	棚田の価値を生かした活動	55個のプランターを設置	景観整備のため、毎年ミックスフラワーのプランター55個を道道茂世丑最上線歩道約380mに設置する	資材費（種子・培土）	一式38,518円/年×5年	192,590
				作業労賃（播種・回収）	15千円/人×16人×5年	1,200,000
				管理費	70円/個×55個×62日×5年	1,193,500
	320㎡の植栽実施	景観整備のため、春木氏圃場に毎年ミックスフラワーの植栽を実施する	資材費（種子）	一式18,396円/年×5年	91,980	
			作業労賃（設置・管理）	15千円/人×12人×5年	900,000	
			借地料	5千円/年×5年	25,000	
	集落機能強化	地域見回り隊への支援	最上、由良地域にある地域見守り隊と集落が連携体制を構築し、地区内の独居世帯及び75歳以上の高齢者世帯（最上：2世帯、由良2世帯）を対象に月1回以上の訪問活動を実施し、安全・安心を確認する	助成金	最上1地域見守り隊訪問活動助成 200,896円/年×5年 年間人件費2,392円/人×7人×12か月	1,004,480
				助成金	由良2地域見守り隊訪問活動助成 82,266円/年×5年 年間人件費2,083円/人×3人×12か月 年間事務費605円/月×12か月	411,330
	生産性向上	対象農地にオオカミの尿を548か所に設置	人及び自然に影響を与えず、鹿を農作物に近づけない効果があるオオカミの尿を地区内の548か所に設置することで、農作物の食害・倒伏等の被害による収量減が軽減される	資材費	一式449,844円/年×5年	2,249,220
				作業労賃（管理）	100円/箇所×548箇所×5年	274,000
ウ 棚田を核とした棚田地域	棚田の価値を生かした活動	年2回の体験学習への協力により、延べ100人の生徒に棚田を認識してもらう	栗沢小学校が行う体験学習に集落として協力し、当日の農作業等の説明・作業補助を行い、合わせて米の内容を記した参考図書の配布を行うことで、参加する生徒に棚田についての理解を深める。（体験学習の回数：2回/年、参加生徒数：延べ20人/年）	作業労賃（体験学習出役）	15千円/人×7人×2回×5年	1,050,000
				作業労賃（学校訪問）	5千円/人×2人×1回×5年	50,000
				参考図書	3,875円/冊×20冊×5年	387,500
	集落機能強化					

の 振 興	生 産 性 向 上					
合 計						10,754,600
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>				2,150,920 円/年 × 5年 =		10,754,600

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：中山間茂世丑集落

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	生棚かしたの価値活動を					
	集落機能強化					
	生産性向上	ストーンピッカー2台組を1台を導入	個々で圃場整備を行っていた農地に関して、共同機械（ストーンピッカー）2台1組を導入して、新たに13haの圃場整備を実施することで耕作条件を改善し、生産量の増加、品質改善を図る	機械購入費	445千円/年×5年（5年分割）	2,225,000
		トレンチャー1台を導入	個々で排水対策を行っていた農地に関して、共同機械（トレンチャー）を1台導入して新たに13haの排水改善を共同で実施することで耕作条件を改善し、作業効率及び収量増加、品質向上を図る	機械購入費	68千円/年×5年（5年分割）	340,000
共同機械の整備・維持管理の実施 共同機械保管施設の維持管理の実施		共同機械のメンテナンス（10種類）を1年に1回整備を実施して、構成員のさらなる修理技術向上を図る  保管施設の維持管理として施設前の砂利敷き（2回、約300㎡）を行い、作業繁忙期に於ける大きな機械故障を減らし、作物の生育に合った適時・適切な作業体系の構築と収量増加、品質向上を図る	メンテナンス料	157,950円/年（上限）×5年	789,750	
			資材費（砂利）	一式20千円/回×2回	40,000	
法面の点検、水路・農道の管理、草刈り等の実施		従来から行っている農用地、畦畔、用排水路等の点検に加え、破損箇所の復旧、日常的な管理活動を定期的実施するため点検活動者を20人増員する 増員後は、破損箇所復旧の体制づくりのため、災害時の活動者間の連絡体制や迅速な資材購入手法等検討を行う  従来の共同取組活動で行ってきた法面の点検、水路・農道の管理、草刈り作業に加え、降雨後の現地確認作業を新たに実施し、速やかに改修を行うことで農地の保全を図る	作業労賃	2,300円/人×20人×5年	230,000	
			圃場等改修委託費	6,533円/㎡×310,695㎡×5年	10,150,000	

イ 棚田等の保全を通じて多面にわたる機能の維持・発揮	棚田の価値を生かす活動	花壇の設置	地域景観保持のために年1回花壇(約250㎡)の花植作業を実施 その後、1年間の除草等の委託作業を地元老人クラブにお願いする	資材費(花苗)	1,000鉢/年 一式75千円/年×5年	375,000	
				資材費(肥料)	一式6千円/年×5年	30,000	
				機械借上費	一式23千円/年×5年	115,000	
				作業労賃(花植)	2,900円/人×30人×5年	435,000	
				管理作業委託費	42千円/年×5年	210,000	
	集落機能強化						
	生産性向上	電牧柵を2,000m維持・設置	電牧柵の設置箇所を増やしその維持管理をする 鳥獣害から作物を守り、収量増加を図る	資材費(電牧)	45,500円/年(上限)×5年	227,500	
				資材費(除草剤)	2,275円/缶×20缶×5年	227,500	
ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	棚田の価値を生かした活動	直売所を活用し棚田地域の啓蒙看板を設置し、駐車場等の整備	茂世丑出身者が集う「札幌茂世丑会」等の交流の中で、茂世丑発信の地域情報をまとめたパンフレット発行及び、茂世丑町会が所有する既存の直売所を活用し地元農産物の発送等年1回実施し、リピーターを確保することで定期的な観光人口の増加を図る	資材費(看板)	一式40千円/回×1回	40,000	
				資材費(砂利)	一式10千円/回×2回	20,000	
	集落機能強化	直売所活用における地域発信を推進	茂世丑出身者が集う「札幌茂世丑会」等の交流の中で、茂世丑発信のパンフレット発行及び、地元農産物の発送等年1回実施	資材費(パンフレット)	一式4千円/年×5年	20,000	
				資材費(農産物)	一式12千円/年×5年	60,000	
	生産性向上						
合 計						15,534,750	
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>					3,106,950 円/年×5年＝	15,534,750	

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：上幌集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	生棚かしたのた価値を					
	集落機能強化	集落地域の清掃（ゴミ拾い）	老人クラブ、町会、親と子の会など地域内の団体と環境美化に係る連携体制を構築し、集落内の基幹道路を3班体制で春・秋の2回清掃活動を行い、棚田の景観を保持する			
	生産性向上	自動操舵装置の補助	自動操舵装置3台の導入により、作業効率の向上で生み出された余剰労働力を生かし、作業進捗を早め、早期作業の着手と均一した圃場条件を作り、生育期間を十分確保することで生産性の向上を図る 田植機5台の導入により該当農地所有者における条件不利地の田植作業の労働力負担の軽減を図る 肥料散布機2台の導入により均一化した施肥作業を行い、安定して均一化された作物の生産を図る	機械導入費 (上限100万円助成)	トリンプル GFX-750 1,000千円/台×3台	3,000,000
				機械導入費 (50%補助)	アシスト機能装置GPS田植機 600千円/台×1/2×5台	1,500,000
				機械導入費 (50%補助)	アシスト機能装置肥料散布機 300千円/台×1/2×2台	300,000
		融雪剤散布機1台を導入	個々の作業機を利用し融雪作業を行っていたが、共同の専用機を1台導入し、新たに20haを共同作業で実施し、農地の早期融雪作業を進め、乾田化により肥効を高め、生産性向上を図る 共同作業0ha→20ha	機械導入費	融雪剤散布機導入HC5010 2,700千円/台×1台	2,700,000
		除草剤散布用ドローン1台を導入	現況は、自走防除カーの作業困難圃場を中心に稼働地域協定者より広域で稼働することで、防除効果を上げたい 除草剤散布も併せて委託希望により増車 目標30ha→200ha(防除2回+除草剤)	機械導入費 機械導入費 導入償却資産税他	AGRAS T-20本体 1,600千円/台×1台 AGRAS T-20付属品 1,400千円/台×1台 AGRAS T-20 一式30,190円/年×5年	1,600,000 1,400,000 150,950
	リモートセンシング用ドローン1台を導入	ドローン1台を導入し、作物の生育状況を測定し、生産者へデータを提供することで、土壌状態及び作物の状況を把握することができ、生産性の向上を図る アシスト施肥機と併用することで、より均一な作物生産が可能となり、農産物を地区ブランドとして販売の増につなげる	機械導入費 機械導入費	P4 MULTI SPECTRAL本体 935千円/台×1台 ライセンス4年分 200千円/年×4年	935,000 800,000	
イ 棚田等の保	生棚かしたのた価値を	雑木を処理	市道・農道沿いに自生する雑木（主にアカシア）を年間1,500m処理し、景観の保全を図る。	委託費	一式750千円/年×4年	3,000,000

全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	集落機能強化						
	生産性向上						
	ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	棚田の価値を生かす活動	統一ブランド袋の作成	栗沢棚田（上幌集落）におけるブランド米として統一した紙袋を作成し、購入者へのPRを進め、直売所及び販売数を増加させる 高額となるため無人直売所では扱わない 販売数 白米10t→20t	資材費	"かもみの里" 10kg米紙袋 100円×6,000枚	600,000
					資材費	"かもみの里" 5kg米紙袋 70円×2,000枚	140,000
集落機能強化							
生産性向上							
合 計						16,125,950	
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>						3,225,190 円／年×5年＝	16,125,950

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：宮村集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）			
ア 棚田等の保全	棚田の価値を生かした活動	協定内農地の集約を86%から92%に集約	高齢等で規模縮小の意向を持つ農家の農地を積極的に認定農業者に集約することで、適切な農地の維持管理を行い地力の維持を図る	報酬（増加分）	役員手当5千円/人×4人×5年	100,000		
			また、認定農業者と農家との調整などについて役員等が棚田地域の着実な活動の実施を管理する	報酬（増加分）	担い手担当手当10千円×4人×5年	200,000		
	集落機能強化							
	生産性向上	高機能田植え機2台を導入	労働力の補完が図られる高性能機械を活用し、適期移植を行うことで品質向上を図る	機械導入費助成	8条直進アシスト田植機2台 500千円/台×2台	1,000,000		
		法面の点検、水路・農道の管理、草刈り等の実施（個人配分）	従来の共同取組活動で行ってきた法面の点検、水路・農道の管理、草刈り作業に加え、近年風雨の害が多くなり該当地周囲の急峻な箇所の現地確認作業を新たに実施し、速やかに改修を行うことで農地の保全を図る	圃場等改修委託費	5千円/㎡×124,364㎡ ×5年	3,109,100		
	イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	棚田の価値を生かした活動	箱罟を4か所に設置	箱罟を中型2基、小型2基、猟友会直接管理2基の計6基を4か所に設置し、相互協力有害獣を駆除する				
					排水路の草や雑木の整理	雑木整理を行って、法面雑地部分の畦畔率20%以上であり、日陰を解消する	作業労賃（雑木整理）	10千円/人×10人×5年
機械借上費							チェンソー 5千円/台×10台×5年	250,000
集会場駐車場に花壇の設置		集落内の婦人会に花苗の育苗、花壇作成、月1回の草取り等の管理を委託し、町会会員が駐車場の草刈を行う						
集落機能強化		独居、高齢者世帯の見守り支援として住宅周りの雑草刈りや除雪などの実施	協定参加者を中心に地域の町内会と集落が連携し見守り支援体制を構築し、地区内の独居世帯（3世帯）毎月1回以上生活環境の聞き取りを行い、独居世帯支援として、草刈・除雪作業を行う	作業労賃（草刈）	5千円/人×9人×5年	225,000		
				作業労賃（除雪）	予算内で支払い	430,000		
生産性向上		電牧柵を4,500m設置	電牧柵を既存の畑を含め毎年4,500m設置することで、鹿による農作物の食害等の被害による収量減が軽減される	資材費（ワイヤー等）	一式50千円/年×5年	250,000		

ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	棚田の価値を生かした活動	空き家修繕の支援	町会が中心となって雪による空き家の倒壊を防ぐため屋根のペンキ塗り			
	空き家の活用方法の検討	地域の生産者の生産意欲を高めるため、町会が中心となって持ち主に空き家の維持・解体の確認と活用方法について検討をすすめる	会議開催事務費	一式30,820円/年×5年	154,100	
	集落機能強化					
	生産性向上					
合 計					6,218,200	
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>				1,243,640 円/年×5年＝	6,218,200	



棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：岩見沢市（栗沢棚田）

集落協定名：万美集落協定

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）		
ア 棚田等の保全	生棚かした価値活動を						
	集落機能強化						
	生産性向上	耕作放棄率について現状の0%を5%以内にとどめる	集落が農業生産法人（毛陽農産）と調整し、農作業の内、防除・収穫・調製作業の受委託を205aから275haに増加することで、労力や農機具の負担を軽減しながら今後も営農を継続することで耕作放棄地の発生を防止する				
		法面の点検、水路・農道の管理、草刈り等の実施	従来の共同取組活動で行ってきた法面の点検、水路・農道の管理、草刈り作業に加え、獣害防止柵の現地確認作業を新たに実施し、破損箇所などを速やかに修繕することで農地の保全を図る	獣害防止柵修繕費	5千円/㎡×19,709㎡×5年	492,725	
	イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	生棚かした価値活動を	花壇の維持と桜の木20本を植栽	棚田を含めた地域景観向上のため、協定農地につながる農道沿いで桜の木20本を定植、管理する。	資材費 植付管理費	苗木2千円/本×5本×5年 一式10千円/年×5年	50,000 50,000
		集落機能強化					
生産性向上							
ウ 棚田を核とした棚	生棚かした価値活動を						
	集落機能強化	毎年札幌市の保育園を対象に田植え・稲刈りツアーを開催し、20人の参加者を確保	集落で実施する札幌市の保育園を対象とした田植え、稲刈りツアーについて、会場となる水田の春作業(播種・田植え)及びイベント企画等を岩見沢教育大学と連携し開催し、稲刈り体験をしたもち米を使って保育園で園児による餅つきを行う 農業体験の開催回数：2回/年、参加者：20人/回	作業労賃（田植）	5千円/人×8人×5年	200,000	

田 地 域 の 振 興	化	万美集落と毛陽集落で紅葉祭を開催	地域総出による農産物の直売や都市と農村との交流イベントを開催することで、他集落との連携を図り栗沢棚田（万美集落）の直売に参加することで、地域への来客数の増加を目指す	作業労賃（直売）	8千円/人×4人×5年	160,000
				資材費	一式6,545円/年×5年	32,725
	生 産 性 向 上					
合 計						985,450
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>					197,090 円/年×5年＝	985,450

棚田地域振興活動加算に係る取組内容(全取組期間)

市町村名：東川町（東川棚田）

集落協定名：東川町中山間制度推進協議会

取組期間：令和2～6年度（5年間）

達成目標		目標に係る具体的な活動内容	活動に係る経費内訳	積算根拠	金額（円）	
ア 棚田等の保全	生棚かたのた価値活動を					
	集落機能強化	令和6年度までに東川棚田の新規就農者数を5人から8人とする。 *平成27年度からの累計	研修生の研修活動支援活動  新規就農者を増加させるため、町内で就農を目指し研修を行う、又はこれから行う研修生3名に対し、農作業に必要な技術習得のため、実践研修を受講した者に対し、研修費の助成(定額)を行う。  研修作物：施設野菜(トマト) 研修内容：研修生を主体として定植から出荷まで独立就農に向けた実践的な研修(165坪ハウス×3棟) 選考：認定申請書、就農希望調書、健康状態、就農意欲、自己資金力等を基に総合的に判断	研修活動支援費	200,000円/年×1人×5年 *実践研修者1人当たり 研修期間最長2年 R2～3 1名	1,000,000
					R4～5 1名	
					R6 1名	
	生産性向上	令和6年度までに東川棚田において草刈りやドローンによる農薬散布などの圃場管理用の共同利用機械を1台以上導入する。	共同機械の導入  共同機械としてドローンや草刈り機を導入し、個々で行っていた防除作業(20ha)や草刈作業(延長30km)を共同で実施することで、病害虫の発生を未然に防止し、水稻の品質向上を図るとともに、農作業の効率化を図り、労働時間の削減に努める。	共同機械導入費	上限500,000円/年×1台×5年 *複数の共同利用申請が出る 場合は傾斜配分 助成対象範囲：農地や農地 周りを管理する共同利用機械 対象機械：ドローン2台、草刈機3台 他	2,500,000
棚田	東川棚田地域内における点検活動者を38人から平成6年度までに40人に増員し、災害を未然に防ぐために点検活動を実施し、棚田等の機能に障害が発覚した場合、または災害により棚田等の機能に障害が発生した場合は、石積み等の工法を用いた復旧作業を実施する。	畦畔等の再構築助成  農用地、畦畔、用排水路等の点検に加え、破損箇所の復旧、日常的な管理活動を定期的に行うため点検活動者を2人増員する。 破損が発覚した場合は速やかに復旧作業を実施する。 増員後は、破損箇所復旧の体制づくりのため、災害時の活動者間の連絡体制や迅速な資材購入手法等の検討を行う。	点検活動労賃	月額13,800円/人×2人×5年	138,000	
			施工費	700円/㎡×200㎡×5年	700,000	
			作業労賃	月額13,800円/人×8人×5年	552,000	
			作業資材費	22,000円/一式×5年	110,000	
				【一式の内訳】		
				スコップ 2,000円×6本		
				ヘルメット 1,500円×6個		
				軍手 500円×2束		

Ⅲ の 価 値 を 生 か し た 活 動	令和6年度までに東川棚田地域内において、農村環境に配慮した家屋建築を1棟以上導入する。	東川町は、北海道最高峰の旭岳を有する大雪山の雄大な山並み、豊かな森林や田園風景といった地域資源が豊かな町である。棚田に点在する家屋が農村景観等になじむことにより、観光資源等として棚田の付加価値を高めることとなる。 そのような背景から農村景観に配慮した家屋として、屋根は山並みをイメージする形状と勾配、色は外壁と共に自然色を採用し、木材の利用や、一定以下の高さを保つことを目標としている。 ついでには、棚田の付加価値を高めるために、協議会が主体となって、農家後継などの人材に対して、農家住宅として農村景観に配慮した家屋を建築するよう推進活動を行う。	協議会自主活動として実施				
集 落 機 能 強 化	令和6年度までに棚田地域内の農業体験、自然体験等の教育活動の指導者を現状の2名から3名まで増員する。	未来を担う子ども達が、都市化にともない自然に接する機会を失っている。また、スーパーが身近な存在となったことから、家庭菜園をする家庭も少なくなり収穫や植物の生育の喜びを味わえる家庭が減少しているため学校教育と連携し食育体験活動を実施する。 町内にある加工体験施設において農園で収穫された農産物の加工体験を新たに実施するため、指導者を現状の2名から3名に増員する。また、専門的知識を有する元普及センターの職員と指導員が連携し、幼児センターの幼児と東川小学校の生徒に対し、体験農園で栽培と収穫の実技指導を行いながら、指導技術の向上を図る。	指導員労賃	1,500円/時間×4時間×3人×3回×5年	270,000		
			作業資材費	9,770円/一式×5年	48,850		
				【一式の内訳】			
				スコップ 2,000円×1本			
				鍬2,000円×1本			
				長靴3,500円×1足			
				ヘルメット 1,500円×1個			
				手袋770円×1個			
生 産 性 向 上	令和6年度までに東川棚田における有害鳥獣の鹿の捕獲頭数を現状の79頭から90頭に目標設定し、棚田等の保全を図る。	鳥獣害被害対策  有害鳥獣捕獲者の人員確保対策として、銃猟免許取得助成、捕獲資材並びに駆除勝利用消耗品の購入助成、捕獲活動助成により、組織と活動の強化を図る。	鳥獣害対策協議会活動助成	150,000円/年×1組織×5年	750,000		
				【内訳】			
			銃猟免許取得助成	取得費100,000円×助成率1/4×1名=25,000円/年			
			箱罟購入助成	箱罟代20,000円×5台×助成率1/4=25,000円/年			
			駆除活動助成	14,000/日×5日×3名×助成率1/2=105,000円/年=100,000円/年			
生 棚 か し の 価 値 を 活 動	令和6年度までに東川棚田におけるブランド米「東川米」の販売量を1,450tから1,500tに増加させる。	東川棚田におけるブランド米の販売箇所を町内外で新規に1箇所以上を増やし、販売量を1,450tから1,500tに増加させる。	協議会自主活動として実施				

ウ 棚田を核とした棚田地域の振興	集落機能強化	農産物の販売や地域の伝統芸能の披露等、都市と農村の交流イベントに構成員が年2回参加し、各回1万人のイベント入場者を確保する。	都市と農村の交流・地域産品の消費拡大、経済活動の活性化を目的としたイベント（くらし楽しくフェスティバル）に参加し、イベント主催者との連携のもと、東川棚田の情報発信を行うことで、地域への来客数の増加を目指す。 なお、集落機能強化を図るには、農業者はもとより、非農業者の移住促進も重要となることから、協議会と町の移住担当部局と連携強化を図りながら東川棚田を始め、生活支援等の情報発信と相談窓口を開設する。	協議会自主活動として実施		
	生産性向上					
合 計						
<参考：棚田地域振興活動加算交付金額>				1,213,770 円/年×5年＝	6,068,850	